

ただ我れ独り尊し

・「*いのちの誕生*」の意味

身、自らこれを当くるに、有も代わる者なし。 (『私説無量寿経』より)

意味 (

「*ただ我れ独り尊し*」の意味

事実としての「*ただ我れ独り*」

誰にも代わってもらえない、代わってあげられない私

(無い私)

(「代わってあげられない」と考える優しい私? 傲慢な私?)

「 い私」(自己愛、利己愛)から「 尊い私」(与えられた命の私)へ

ナンバーOne から ()One へ

・誕生時の「七歩の歩み」の意味

私たちの現実に苦しむ世界(有り様)を六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天)と表現した。

地獄道 (

餓鬼道 (

畜生道 (

修羅道 (

人道 (

天道 (

六道(六歩)を越えて七歩目へ

声聞 縁覚 菩薩 仏

十界 (

・「右脇から誕生したゴータマ」の誕生(カースト制度の影響下にあるインド古典文学の誕生表現)

頭から生まれる (

腕・脇から生まれる (

股間から生まれる (

足の裏から生まれる (

自己評価(今日の授業を受けて)

該当に をつける A:積極的に参加した

B:普通

C:あまり関心がなかった。

感想欄(今日の授業を受けて)

私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように
地面(じべた)を速くは走れない。

私がかからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように
たくさんのはきは知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私
みんなちがって、みんないい。

(金子みすず)

インドの価値観

Right (

Left (

日本の価値観

左大臣と右大臣